

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

アジア新興国の輸出は一進一退 (Asia Weekly (12/5 ~12/9))

～フィリピンではインフレ圧力が徐々に高まる兆しも～

発表日: 2016年12月9日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/6(火)	(台湾)11月消費者物価(前年比)	+1.97%	+1.50%	+1.70%
	(フィリピン)11月消費者物価(前年比)	+2.5%	+2.2%	+2.3%
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.50%	1.50%
12/7(水)	(豪州)7-9月期実質GDP(前年比)	+1.8%	+2.2%	+3.1%
	(マレーシア)10月輸出(前年比)	▲8.6%	▲5.6%	▲3.0%
	10月輸入(前年比)	▲6.6%	▲0.1%	▲0.1%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	6.25%	6.00%	6.25%
	(現金準備率)	4.00%	4.00%	4.00%
	(台湾)11月輸出(前年比)	+12.1%	+9.3%	+9.4%
12/8(木)	(中国)11月輸出(前年比)	+0.1%	▲5.0%	▲7.5%
	11月輸入(前年比)	+6.7%	▲1.9%	▲1.4%
12/9(金)	(フィリピン)10月輸出(前年比)	+3.7%	+7.9%	+5.1%
	10月輸入(前年比)	+5.9%	+7.5%	+13.5%
	(中国)11月消費者物価(前年比)	+2.3%	+2.2%	+2.1%
	11月生産者物価(前年比)	+3.3%	+2.3%	+1.2%
	(マレーシア)10月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+3.4%	+3.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【フィリピン】 ～食料品やエネルギーなど生活必需品の物価上昇に加え、ペソ安もインフレ加速に繋がる～

6日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+2.5%となり、前月(同+2.3%)から加速した。前月比も+0.62%と前月(同+0.21%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心に食料品価格の上昇圧力が高まっているほか、このところの原油相場の底入れなどを反映してエネルギー価格も全般的に上昇基調をつよめるなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まっていることが影響している。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.39%と前月(同+2.32%)から加速しており、前月比も+0.35%と前月(同+0.14%)から上昇ペースが加速している。このところのエネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上昇により一部の消費財で物価上昇圧力が高まる動きがみられるほか、国際金融市場での通貨ペソ安の進展に伴う輸入インフレ圧力も消費財物価の押し上げに繋がっている。その一方で、堅調な景気拡大が続いているにも拘らずサービス物価は全般的に落ち着いた推移が続いており、インフレ率の急加速を免れている。

9日に発表された10月の輸出額は前年同月比+3.7%となり、前月(同+5.1%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりに減少に転じるなど拡大に一服感が出ているものの、中期的な傾向は依然として拡大基調が続いている。ただし、当月については最大の輸出財である電子部品をはじめとする電気機器関連の輸出額が鈍化したほか、機械製品など幅広い分野で輸出に一服感が出ている。

国・地域別では、米国向けは横這いで推移するなど年末商戦向けの輸出に堅調さがみられる一方、最大の輸出先であり過去数ヶ月堅調な動きをみせてきた中国（含、香港）向けに頭打ち感が出たほか、日本向けなどの鈍化が全体の足かせになった。一方の輸入額は前年同月比+5.9%となり、前月（同+13.5%）から伸びが鈍化した。前月比も3ヶ月ぶりに減少に転じるなど拡大基調に一服感が出ている。夏場以降の原油相場の上昇が一巡するなど商品市況の上昇が一服したことも輸入額の下押しに繋がっている。結果、貿易収支は▲21.63億ドルと前月（▲18.90億ドル）から赤字幅が拡大している。

図1 PH インフレ率の推移

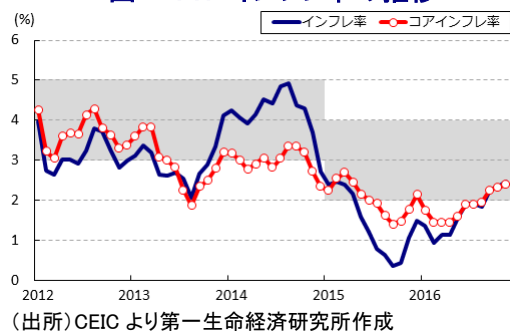
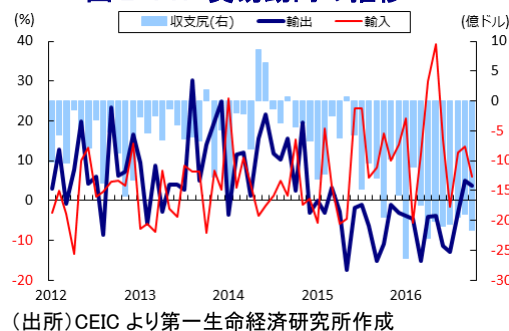


図2 PH 貿易動向の推移



[マレーシア] ～外需に弱含む動きがみられる一方、商品市況の底入れを反映して鉱業部門の生産は堅調～

7日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲8.6%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲3.0%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲1.1%と前月（同▲0.9%）から2ヶ月連続で減少しており、調整圧力が強まっている様子がうかがえる。主力の輸出財である電子部品や電気機器関連は堅調な推移が続いているほか、石油製品や液化天然ガス（LNG）、木製品や天然ゴムなどについても商品市況の上昇が輸出額の押し上げに繋がる動きがみられたものの、パーム油では市況に加えて数量の鈍化が輸出額の下押しに繋がったほか、原油についても輸出量の鈍化が重石となり全体を下押しした。国・地域別では、最大の輸出先である中国向けのほか、米国やEUなど先進国向けは堅調な推移をみせる一方、ASEANをはじめとするアジア諸国向けの鈍化が足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比▲6.6%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲0.1%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲5.8%と前月（同+1.6%）から3ヶ月ぶりに減少に転じており、足下における輸出の足踏みが輸入の急ブレーキを招いている可能性がある。輸送用機器や設備投資関連の機械製品など資本財の輸入には底堅さがみられる一方、生産調整圧力の高まりを反映して中間財の輸入が鈍化したほか、国内需要の弱さは消費財の輸入の下押し圧力となっている。結果、貿易収支は+97.57億リンギと前月（+75.61億リンギ）から黒字幅が拡大している。

9日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月（同+3.2%）から伸びが加速した。前月比も+0.8%と前月（同▲0.1%）から4ヶ月ぶりに拡大に転じており、調整模様が続いた生産が底打ちしている様子がうかがえる。国際商品市況の底入れを背景に鉱業部門の生産で拡大基調が続いているほか、製造業の生産も緩やかな拡大が続くなど、幅広い分野で生産拡大の動きが広がっている。鉱業分野では原油やLNGの生産が押し上げに繋がっているほか、製造業では主力の輸出財である電気機械関連のほか、自動車関連で頭打ち感が出る動きがみられる一方、石油化学関連のほか、食品加工関連の生産の堅調さが下支えに繋がった。

図3 MY 貿易動向の推移

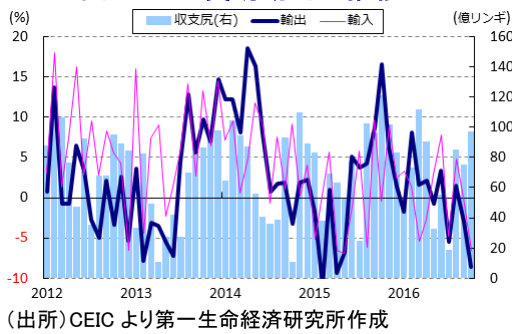
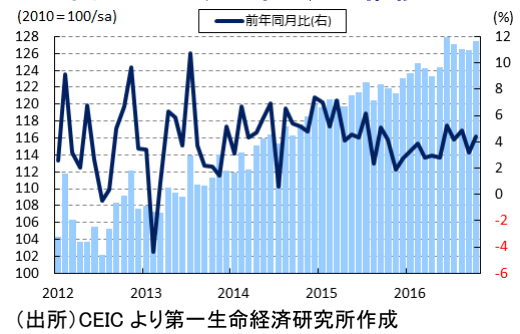


図4 MY 鉱工業生産の推移



【台湾】～エネルギー価格上昇がインフレ率を加速も、コアインフレは減速するなどディスインフレ続く～

6日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+1.97%となり、前月(同+1.70%)から加速した。しかしながら、前月比は▲0.43%と前月(同+1.45%)から3ヶ月ぶりに下落に転じており、必ずしも物価上昇圧力が高まっているとは判断出来ない。このところの原油相場の底入れの動きを反映してエネルギー価格に上昇圧力が高まる動きがみられる一方、生鮮品を中心に食料品価格が下落するなど落ち着きをみせており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちである。一方、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.84%と前月(同+0.96%)から減速しており、前月比も▲0.24%と前月(同+0.52%)から3ヶ月ぶりに下落に転じるなど物価上昇圧力が後退している様子がうかがえる。消費財全般で物価上昇圧力が後退する動きがみられるほか、幅広い分野でサービス物価も下落するなど景気の先行き不透明感を示唆する動きもみられるなど、引き続き物価が上昇しにくい展開が続いている。

7日に発表された11月の輸出額は前年同月比+12.1%となり、前月(同+9.4%)から伸びが加速した。前月比は+0.8%と前月(同+3.4%)から拡大ペースは鈍化しているものの、3ヶ月連続で拡大基調が続くなど底入れが進んでいる様子がうかがえる。主力の機械製品関連で堅調な伸びが続いていることに加え、精密機械や金属部材などの輸出の堅調さも下支えに繋がっている。国・地域別では、最大の輸出先である中国本土向けが大幅に加速していることに加え、ASEANをはじめとするアジア新興国のほか、米国向けの高い伸びも輸出の押し上げを促している。一方の輸入額は前年同月比+3.0%となり、前月(同+19.5%)から伸びが鈍化した。前月比も▲4.5%と前月(同+12.8%)に大きく拡大した反動も重なり2ヶ月ぶりに減少に転じているものの、底堅い動きをみせている。原油をはじめとする国際商品市況の堅調さが輸入額の押し上げに繋がっているほか、輸出の好調さは原材料や部材などに対する需要を下支えしている。結果、貿易収支は+42.65億ドルと前月(+43.77億ドル)からわずかに黒字幅が縮小している。

図5 TW インフレ率の推移

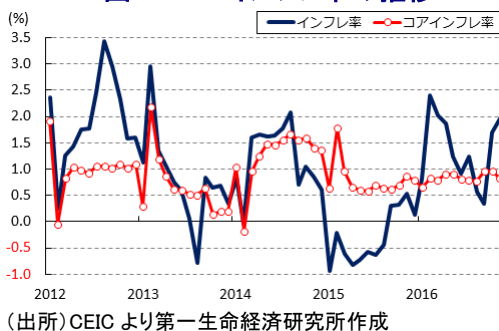
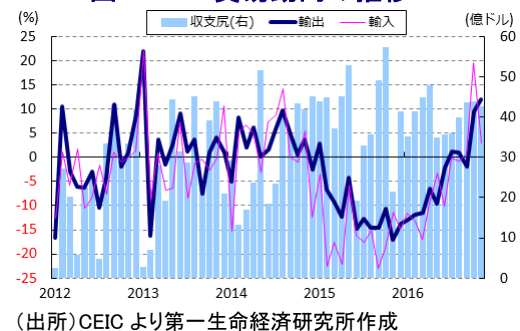


図6 TW 貿易動向の推移



以上